



恋人岬は、タモン湾を一望するグアムで一番の景勝地。岬の突端は海拔122メートルの断崖で、真下の海を覗くのはスリリングだ。遠方にはホテル・ニコニー・グアムが見える。

特集①

グアム島 再発見の旅



たった3時間半のフライトで常夏の島に。国内旅行とほぼ変わらない手軽さで、日常とかけ離れた自然を味わえるのがグアムの魅力だ。しかも時差は1時間だけ。日本を飛びたった飛行機はひたすら南へ。海の色が透明な青になったらもうすぐグアムだ。

文・轟 優子 写真・土屋 明

島の南部にあるグアム歴史村、イナラハン・ゲフバゴ文化村では、少女がチャモロの伝統的なコスチュームでダンスを披露する。

近くて、手頃で、そしてぜいたく贅沢

「こんなに近いのか」と驚くぐらいあっという間に到着。特に真冬やまだ寒い春先に日本列島からグアム島にやってくると、著しい気候の違いに体が驚く。北緯13度28分に位置し、赤道に近いこの島は海洋性亜熱帯気候で、気温は一年中27度から30度と変わらない。だからいつ行ってもリゾートウェアとビーチサンダルで過ごすことができる。一年は乾期と雨期に二分され、乾期は11月から5月くらいまで続く。ただし、12月だけは、時として台風に乗られることがある。グアム近海ではおよそ5～6年に1度の割合で台風が発生し、時には大きな被害がある。台風を除けばなんの気候変動もないけれど、雨期には一日に何度か猛烈なスコールがある。とはいえ、一日中雨が降り続くことはないから、雨宿りでしのげばいい。そして、グアムの面積は淡路島とほぼ同じで、6～7時間もあれば一周できるほど小さい。

日本に一番近いアメリカの島グアム（アメリカ準州）は、航空運賃が手頃で日本各地から毎日のようにフライトがある。街の美化運動が進み、インフラも一段と整備された今だからこそ、国内旅行の延長線で気軽に出かけてみたい場所だ。





島の北西部にあるココパーム・ガーデンビーチの静かな海辺では、大人も子供も一日中リラックス。



ホテル・ニッコー・グアムの北側に位置するガン・ビーチで、日光浴を楽しむ愉快的親子。

たった3時間半で別世界の南の島に

家族で行くなら最低でも3泊4日は欲しい。まず到着1日目はホテルで荷解きしてリラックス。たまには南の島でなければとても身に着けることができないような派手なアロハシャツとショートパンツ姿はいかがだろう。女性は肩が大きく開いたサマードレスに着替えて、いつもと違った解放感に浸るのもいい。冷たいトロピカルカクテルを飲んでリラックスしていると、子供たちはもう、待ちきれない気分で水着に着替えてビーチに駆け足だ。「ああ、来てよかった」と実感するや、とろーりとろける気分で知らぬ間に海辺のデッキ・チェアでうとうと。宵ともなれば、さあ、ビーチでバーベキューと行こう！

グアムは、家族、カップルの旅行はもちろん、あらゆる年齢層に適したアクティビティーが揃っている。マリンスポーツやゴルフ、そして島の南部ではトレッキングが楽しめる。多忙なエグゼクティブでも、緊急な用事があればたった3時間半で日本に戻ってくる事ができる。空港から程近いタモン湾

沿いに立つ高級リゾートホテルの多くはここ数年で、リノベーションを終えた。海を一望するテラス付きのスイートルームはゆったりとしたスペースが満喫できる上、他のリゾートと比べると宿泊料金がリーズナブル。

日が一泊ビーチで太陽を浴びる

カップルならば、島最北端にあるアンダーソン空軍基地から程近い、ココパーム・ガーデンビーチで日が一泊のんびりするのもいい。ここは2003年にオープンした比較的新しい日帰りビーチリゾートだ。透明な海の青が白い砂浜に美しく映え、穏やかな波が静かに打ち寄せる。「とにかく水が透明できれいですから、すぐその海に入るとカラフルな魚がたくさん見えますよ。遠浅だからジェットスキーやウインドサーフィンではできませんが、リラックスするには最適です。4回も5回もやってくるリピーターも多いんです」と言うのは、マネージャーの淡路勝一さん。ビーチのすぐ裏手にあるナチ

ュラル・トレイルを案内してもらった。小道の両脇にはパンの木やココ椰子の木などが生え、可愛いピンクの花が咲く南洋桜や香水の原料となるイランイランの黄色い花が咲いている。「野生のブーゲンビリアを見てください。ほら、すごい棘でしょ」と淡路さん。濃いピンクの花は美しいが、枝に生える棘が鋭くて刈り取りにくく、廃墟に密生して家屋を覆い尽くすそうだ。

島を訪れたカップルが必ず立ち寄るのが恋人岬。タモン湾の北に位置するガン・ビーチのすぐそばにあり、グアム一の観光名所として知られる。スペイン統治時代に、島の原住民、チャモロの美しい娘が、結婚を迫るスペイン総督から逃れ、チャモロ人の恋人とともにここから身を投げたという伝説からこの名前が付けられた。展望台からタモン湾の美しい海岸線を眺めるといい。イパオ岬からオロテ岬まで一望できる。

島の南東に広がる豊かなジャングル

アクティブ派であれば、タロフォフォ川支流のウグム川を小船で下り、チャモロ文化や豊かなジャングルの植物群を訪ね歩くのも楽しいだろう。島の南東に広がるジャングル地帯は川底から湧き水が噴出し、豊かな植生が特徴だ。だからここではおよそ飢え死にする心配がないらしい。グアム島で28年間も暮らした横井庄一さんの棲み家がタロフォフォ川の近くにあったのもなずける。野生のバナナ、パパイヤ、マンゴーなどフルーツが年中実り、川にはナマズやティラピアが泳ぎ、ジャングルには野生のニワトリ、アヒル、ブタ、そしてチャモロの人々が珍重するヤシガニが生息している。

グアム島の人口は16万で、そのうち先住民のチャモロ人が23%を占めているという。チャモロ人がグアム島にやって来たのは、およそ2000年前とか4000年前など諸説がある。星を頼りに航海したという彼らは、大きな目、比較的狭い鼻孔、精悍な体つき、浅黒い肌と黒い髪を持つ。ジャングルツアーのガイド、アルドン・パウリノさんもその一人で、チャモロの文化に誇りを持っている。彼は高床式住居の土台だったといわれるラッテストーン (Latte stone) や石のまな板を見せてくれた。「ノニの木の実には心臓病や高血圧に効果があるんだよ」とノニの木の葉っぱを指し示す。チャモロ人は椰子の葉で帽子、バスケット、スカート、そして魚籠や家の屋根まで見事な手さばきで作る。パウリノさんの話では、島民のうち最も多いのがチャモロ人で、次にフィリピン人、チャモロ人とフィリピン人との混血、そして日本人と続くそうだ。ち



上：太平洋を望むダイナミックなゴルフコース、カントリークラブオブザパシフィック (CCP) は、全米ゴルフ協会のコースレーティングで「グアムで一番難しい」とされ、コースレート76と認定された。

上：南部のジャングルは水が豊富だ。タロフォフォ川の支流にはマングローブが茂る。

下：タモン地区には世界の一流ブランド品を揃えているショッピングセンターが集中している。

下：真っ赤なバスは、ショッピングエリアとホテルを結ぶ便利な足。

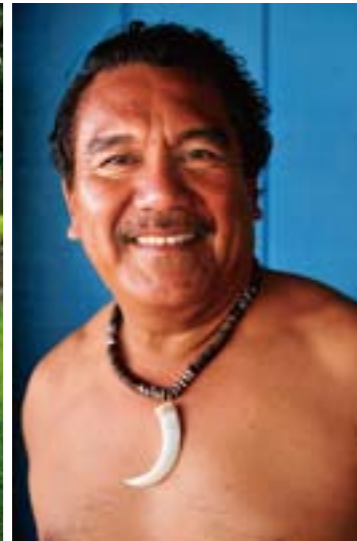
チャモロ社会では昔、亀の甲羅や貝を平たく削り、通貨や社会的な地位を示す装飾品として使った。



なみに年間 100 万人が訪れるという観光客のおよそ 8 割近くが日本人だという。

チャモロ料理の腕自慢

島の伝統、チャモロ料理を食べてみよう、オハナ・オーシャンビューにあるチャモロ亭というレストランを訪れてみた。女性マネージャーの E.J. クランデさんが名物、レッドライス（Red Rice）を味付けするアチョーテ（Achote）というライチに似た実を見せてくれた。アチョーテの実の種をつぶして米と一緒に煮るといふ。レッドライスに次ぐ定番料理はケラグエン（Kelaguen）だ。細かくスライスした鶏肉や魚をレモン汁、くだいたココナッツの実、唐辛子で味付けしたピリ辛料理で、ビールのつまみによく合う。クルマエビのココナッツミルク煮やパンシット（Pancit）というグアム風焼きそばもチャモロ人の好物だ。「チャモロ料理はレストランで食べるより、家で作ったほうがもっとおいしい」と言うのは、ホテル・ニッコー・グアムの副総支配人、ジョー・プラスさん。プラスさんの自慢はヤシガニ料理で、「ロブスターに優る味だ」と言う。そして、チャモロ人は島の宝物として収穫の祝いには必ず果物を食べることも教えてくれた。



上：ラッテストーンと呼ばれる石柱は、古代チャモロ時代の高床式住居の土台だったと言われる。

上：チャモロ人のアルドン・パウリノさんが着けているのは、現代風にアレンジされた貝の首飾り。

下：クルマエビをココナッツミルクで煮た、チャモロの代表料理。

下：レッドライスはチャモロ料理に欠かせない一品。手前に見えるイガのある暗褐色の実の種をつぶして、米と一緒に炊いて作る。

スペイン統治下の面影

タモン湾沿いにあるホテルの中でも、鳥が翼を広げたような形が一際目立つホテル・ニッコー・グアム。18 年前にできたこのホテルで長く働いているプラスさんもチャモロ人の末裔だ。彼は同じくチャモロ人の奥さんと家でチャモロ語を話す、仕事ではもう一つの公用語である英語を使う。チャモロ語の 8 割はスペイン語から派生しており、長い間スペインに統治されていたことが影響している。「ハファアディ（Hafa Adai）という言葉覚えておくといい」とプラスさん。「こんにちは」という意味のチャモロ語だ。

スペイン統治下の文化が残っている村を訪れようと、タモン湾から車で南へと向かう。途中、セラ湾展望台からラムラム山を眺めてみた。このあたりまで来ると、隆起サンゴの石灰岩でできている北部と異なり、水が豊富で緑が一際濃くなる。しばらく走って南端近くのウマタック湾に到着。1521 年、ポルトガル人探検家、マゼランが初めてグアムに上陸したのはこのウマタック村だった。三角の白い石碑が上陸地の目印



スペインの三代目総督、キロによって開かれたイナラハンの村にある聖ヨセフ教会。



スペイン広場に残るスペイン総督邸の遺跡。円形の小さな建物は復元されたもので、チョコレートハウスと呼ばれる。

として立っている。その後 1565 年、スペインが領有を宣言して植民地化し、1668 年にグアムは正式にスペイン領となった。スペイン人の布教により現在もチャモロ人のほとんどは敬虔なカトリック教徒で、毎週日曜日には家族揃って教会に行く。ウマタック村の入り口では、1939 年、ローマ法王がこの地を訪れたことを記念して建てられたレモン色の聖ドニシオ



1521 年、ポルトガル人、マゼランが初めてグアムに上陸したウマタック湾の岸辺には、記念碑が立っている。

教会が人目を引く。島の南端のメリッツォ村を過ぎて東側に出ると、スペイン文化の面影が残るイナラハンの村に着く。美しいフォルムで真っ白な聖ヨセフ教会は村のシンボルだ。天井が高く、左右の壁一面にはステンドグラスの窓が広がり、ステンドグラスから強い日差しが礼拝堂に差し込んでいた。村の奥にはスペイン統治下の時代に建てられた邸宅が並んでいるが、どれも朽ち果てるのを待つばかりで今は住む人もいない。

ホテルに帰る途中、首都ハガニアに立ち寄り、スペイン広場を歩いてみた。スペイン総督邸の跡地には、総督夫人が賓客をココアでもてなしたというチョコレートハウスが立っている。近くには眺めのよいアプガン砦があり、スペイン人が設えた大砲が 3 基並んでいた。

ビーチサイドのハイウェイを走り、南の太陽に照らされながら一日中ドライブし、あっという間に島を一周した。ホテルに戻ったら、夕暮れ時、部屋のバルコニーからタモン湾のサンセットを眺め、リゾートライフを心ゆくまで楽しむことにしよう。■

グアムのリゾートホテルのなかで、最大級のガーデンスペースと492の全客室がオーシャンビューという最高の条件を備えているのがホテル・ニッコー・グアムの魅力。ゆったりのおんびり、リゾートライフを心ゆくまで満喫したいという向きにぴったりだ。小さな子供連れの家族はもちろん、中高年のカップルまで、あらゆるジェネレーションが満足する施設が整っている。開業15年目を迎えた2006年から2007年にかけて、客室の全面改装が、さらに廊下の改装も最近終わり、シックなアジアテイストのホテルに生まれ変わった。例えば、ベッドルームとの間が木目の美しい格子で仕切られたパウダー

タモン湾を一望できる客室で リゾート気分に入る

ホテル・ニッコー・グアム

ルームは、広々として使いやすく、いかにもリゾートホテルという造りになっている。

15階のオーシャンフロントデラックスに泊ってみた。テラスからはタモン湾の青い海が眼下に広がる。朝6時。鳥の声で目覚め、カーテンを開けると太陽がもう昇っている。冷たいマンゴージュースを片手に、雄大な景色を眺めているだけで、心も体も確実に癒されていく。「ああ、南の島にやって来たんだな」という実感がわく。朝食は、プールサイドバー「ブーゲンビリア」でビーチサイドプレミアムブレックファストにしよう。ちょっと贅^{ぜいたく}沢な気分に入るから。午後いっぱい

左：タモン湾北端の絶好のロケーションにあるホテル・ニッコー・グアム。

中：クリスタルチャペルでのウェディングは、太平洋を望む壮大なパノラマが一生の思い出を作る。

右：落ち着いた雰囲気でのウェディングを演出するサンビトレスベイサイドチャペル。



ガン・ビーチ側の客室からは、広大なカーテンとグアム島の形を模したプールが見える。

右と右下: ホテル最上階にある本格中国料理レストラン「桃李」。タモン湾のサンセットが一望できるレストランでは、新鮮なシーフードやトロピカルフルーツなどさまざまな食材を使った料理が楽しめる。

上: キングサイズベッドを備えたオーシャンフロントデラックスワナは、トロピカルな雰囲気があるハネムーンに人気。高層階に14室設置。48㎡(バルコニー含む)

中: オーシャンフロントパーラースイート。リビングルームとベッドルームが一体になった広々とした空間が、開放感とフレッシュな雰囲気をかもし出す。バルコニーから眺める海の景色は格別だ。100㎡(バルコニー含む)

下: 風格のあるプレジデンシャルスイートのリビングとダイニングルーム。奥の寝室は寝心地の良いセミダブルベッド2台を備えている。210㎡(バルコニー含む)



プールサイドかビーチに寝そべて静かな波の音を聞きながら過ごすのもいい。

夕方6時、トロピカルガーデンがにわかに騒がしくなる。ニッコーサンセットビーチバーベキューが始まるのだ。ビーチサイドに250席あまりのテーブルが並び、タモン湾のサンセットとファイアーダンスショーを見ながら、思う存分バーベキューを楽しめるとあって、近隣のホテル宿泊者もたくさんやって来る。子供も大人もリズムに乗って、砂浜の舞台上で踊るダンサーの仲間入り。屋内では幻想的なマジックディナーショーも開催されているので、こちらも見逃せない。

豪華なプライベートディナーを楽しみたいという向きには、トロピカルガーデンでのプライベートバーベキューや、スイートルームのバルコニーでのディナーがおすすめ。その他にもホテル・ニッコー・グアムのレストランは16階の桃李、ロビー階の弁慶やフュージョンテイストのマゼランなどチョイスが豊富だ。桃李はタモン湾の景色をパノラマで楽しみながら食事ができる本格中国料理レストラン。「人気メニューはグアム近海産の海鮮料理です」と料理長の金勝泰輔さんが薦めてくれた。

アクティビティ施設も充実している。ウォータースライダー付きのプールは子供も大人も楽しめる。テニスコート、パターゴルフも完備。そしてビーチに沿って設えられたネイチャートレイルを散策するのも一興だ。ちなみに、グアムにはカントリークラブオブザパシフィック(略称: CCP)をはじめとする7つの一流ゴルフ場があるので、腕自慢の方々はゴルフ三昧という。また、ホテルには観光バスや近場のダウンタウンに向かうバスが定期的に巡回しているので、ショッピングや日帰りツアーにも事欠かない。グアムは免税の島だから、ブランド品やジュエリー、旬のファッションアイテムを求めるファッション好きにも喜ばれる。DFS ギャラリアやザ・プラザなど大型店がタモン地区に密集しているのでぜひ立ち寄ってみたい。

もちろんグアムは、ウェディング&ハネムーンには最適の島。ホテル敷地内にはサンビトレスベイサイドチャペルとクリスタルチャペルの2つがある。一生の思い出に、海と空と、雄大に広がるビーチを前に永遠の愛を誓う……そんなロマンチックな舞台を演出してくれるのもホテル・ニッコー・グアムならではのスペシャルティ。日本からたった3時間半のフライトで、さあ、降り注ぐ太陽の光を浴びに出かけよう。■

ホテル・ニッコー・グアム
 PO Box 12819 Tamuning, Guam 96931
 Tel: 1-671-649-8815 Fax: 1-671-649-8817
 www.nikkog Guam.com



上と中: トロピカルムード満点のニッコーサンセットビーチバーベキュー。タモン湾に沈む夕日を眺めながら、華やかなファイアーダンスショーとボリューム満点のバーベキューがたっぷり味わえる。

下: ライトアップされたプールに、ホテルのシルエットが美しく映える。